

2024年2月期 第3四半期決算補足資料

テクミラホールディングス株式会社

2024年1月12日



I . 2024年2月期第3四半期 決算概要

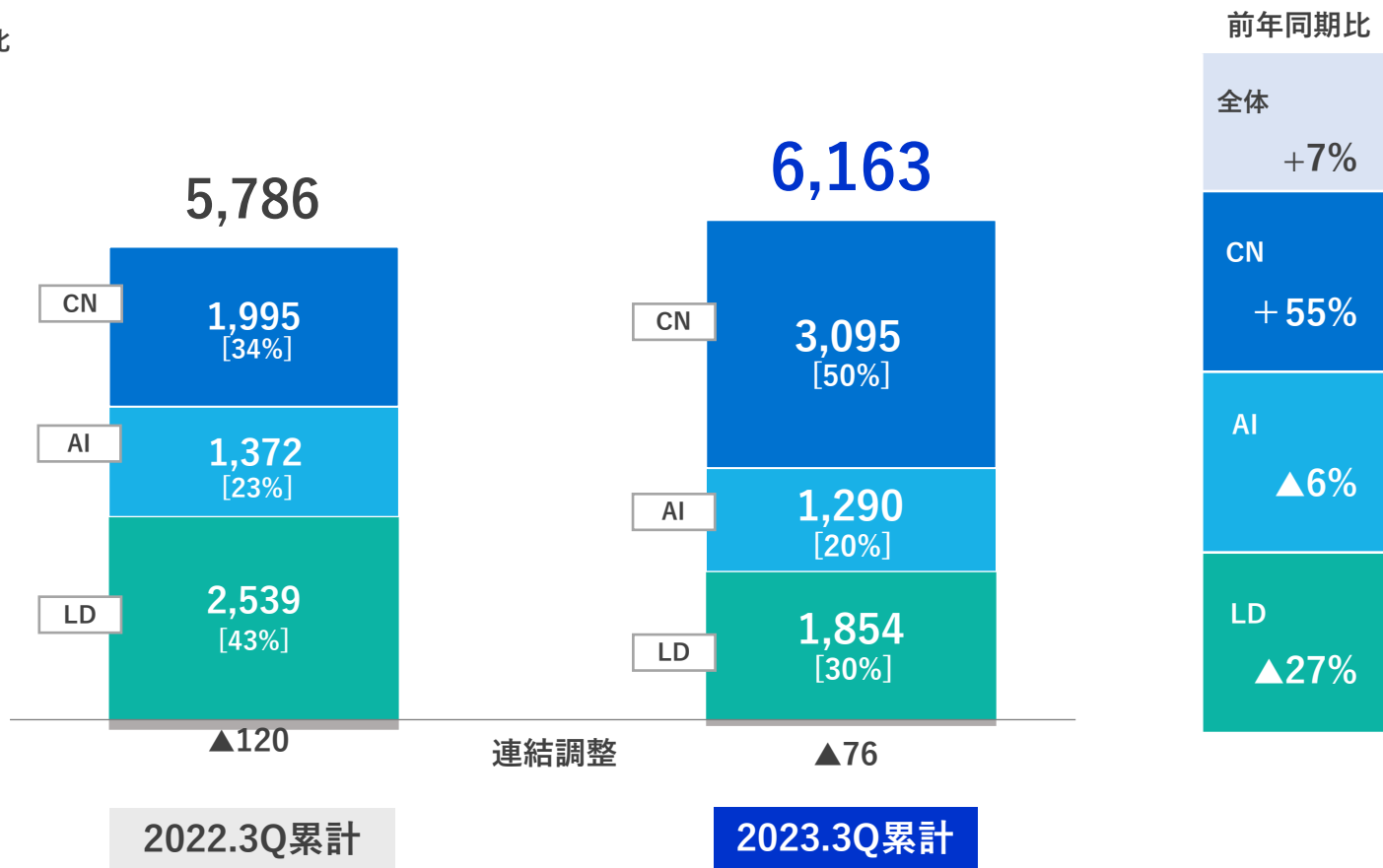
コネクテッド事業の回復により、売上高は全体として7%の増収
 ゲームソフトの海外販売一巡や、中期を見据えた既存受託系事業から投資先行型事業
 (AI、BtoBサービス、自社製品事業など)へのシフトに伴い総利益率が低下、増収減益に

単位：百万円	2022.3Q累計	2023.3Q累計	前年同期比	
			百万円	%
売上高	5,786	6,163	+377	+7%
総利益 (%)	2,099 (36%)	2,069 (34%)	▲30 (▲2p)	▲1%
販管費 (%)	2,186 (38%)	2,241 (36%)	+55 (▲2p)	+3%
営業利益 (%)	▲86 (-)	▲171 (-)	▲85 (-)	-
(為替差益)	(197)	(89)	(▲108)	▲55%
経常利益 (%)	109 (2%)	▲4 (-)	▲113 (-)	-
親会社株主に帰属する 当期純利益 (%)	43 (1%)	▲20 (-)	▲63 (-)	-
ROE	0.8%	▲0.4%	▲1.2ポイント	

CN事業が前年同期比で5割強の増収となったことにより
 ゲームソフトの海外販売一巡やリソースシフトによる
 ソリューション系売上高の減少をカバーし、全体で7%の増収へ

単位：百万円 []内は構成比

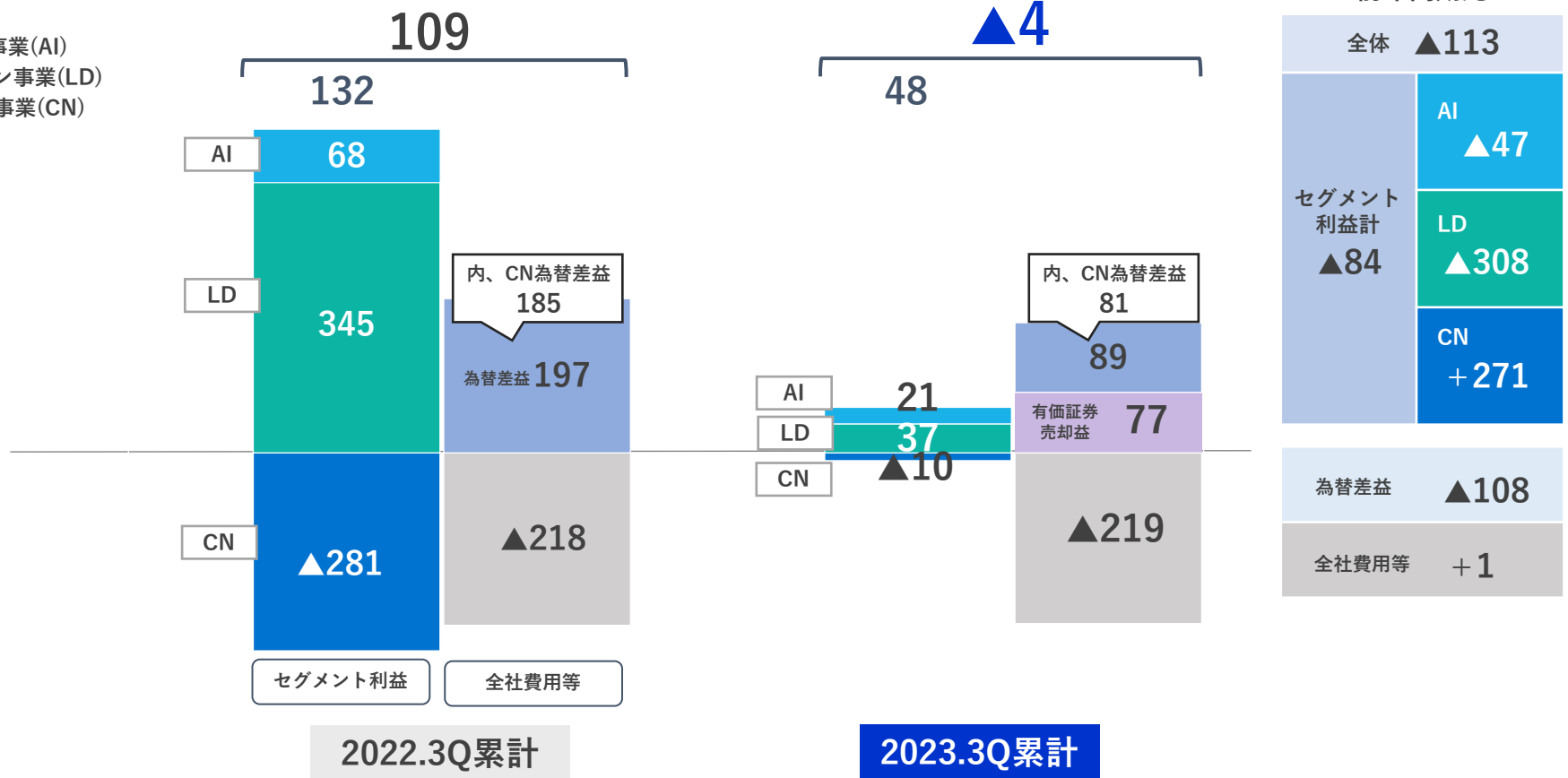
- コネクテッド事業(CN)
- AI&クラウド事業(AI)
- ライフデザイン事業(LD)



CN事業の实质セグメント利益（セグメント利益+為替差益）は黒字化するも、海外ゲームソフトの一巡やソリューション系事業の減益により経常利益が減少

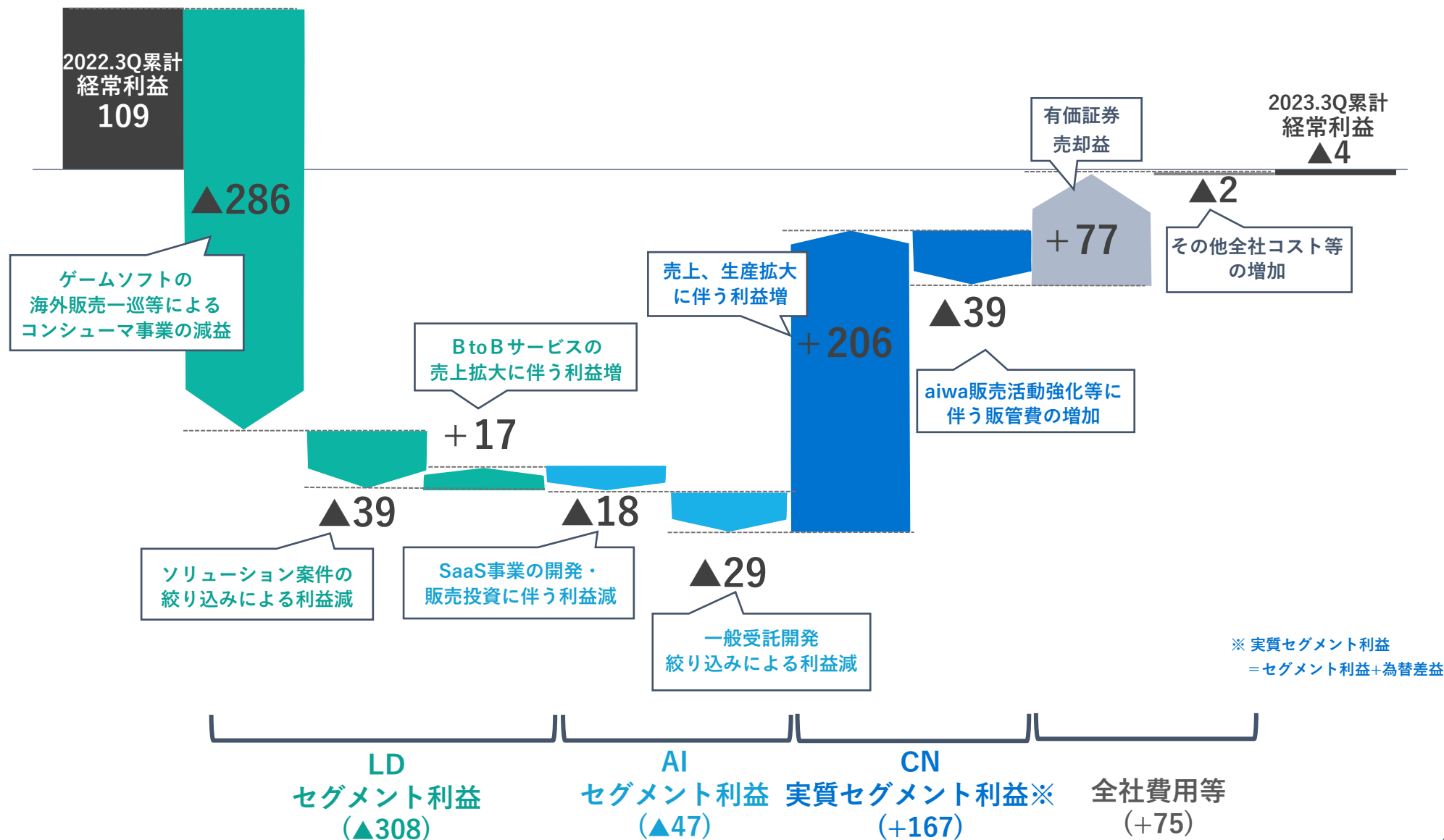
単位：百万円

- AI&クラウド事業(AI)
- ライフデザイン事業(LD)
- コネクテッド事業(CN)
- 全社費用等



経常利益増減要因 (対前年同期比)

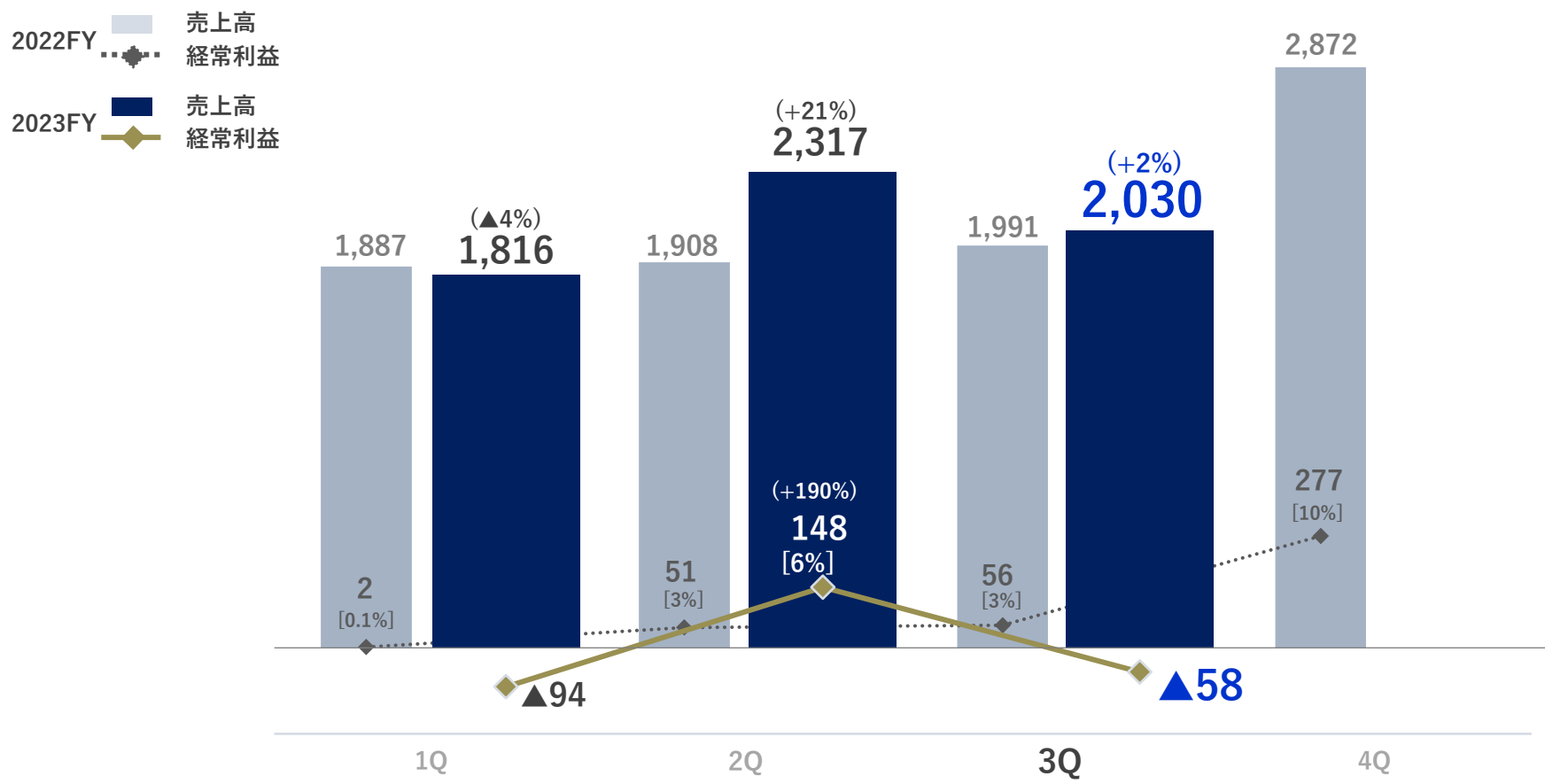
単位：百万円



2023FY 3Q Summary

3Qは売上高前年同期比2%の増収なるも、海外ゲーム一巡やソリューション系事業の絞り込み、CN事業における為替環境等による原価率アップが影響し、経常利益については減益

単位：百万円 () 前年同期比 [] 利益率 ※マイナスの場合は省略



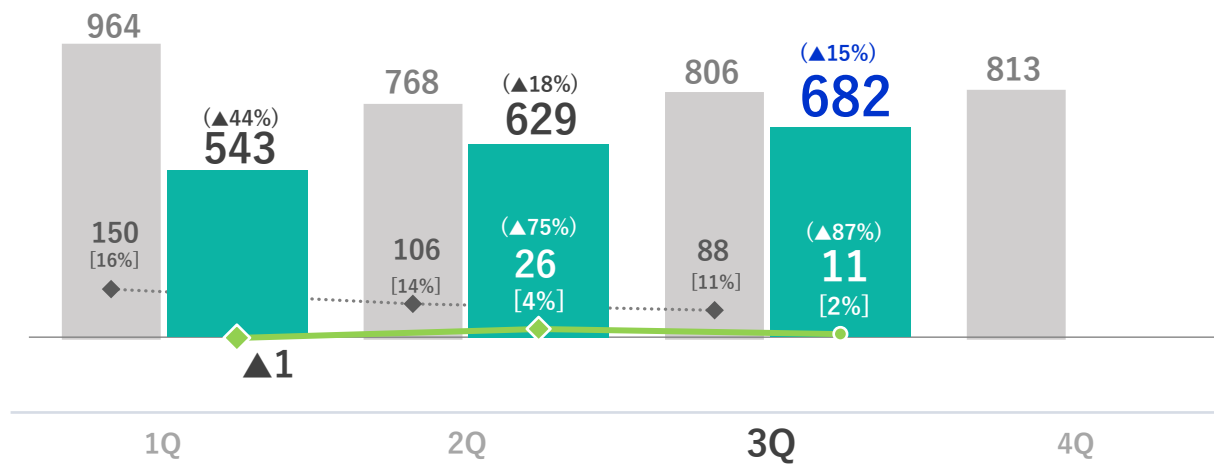
2023FY 3Q Summary

ゲームソフトの海外販売一巡により、前年同期比では減収減益となるもヘルスケア、メディカル、FinTechなどのBtoBサービスは順調に推移。4Q発売のゲーム宣伝販促費が3Qより発生

単位：百万円 () 前年同期比 [] 利益率 ※マイナスの場合は省略

2022FY ■ 売上高
◆ セグメント利益

2023FY ■ 売上高
◆ セグメント利益



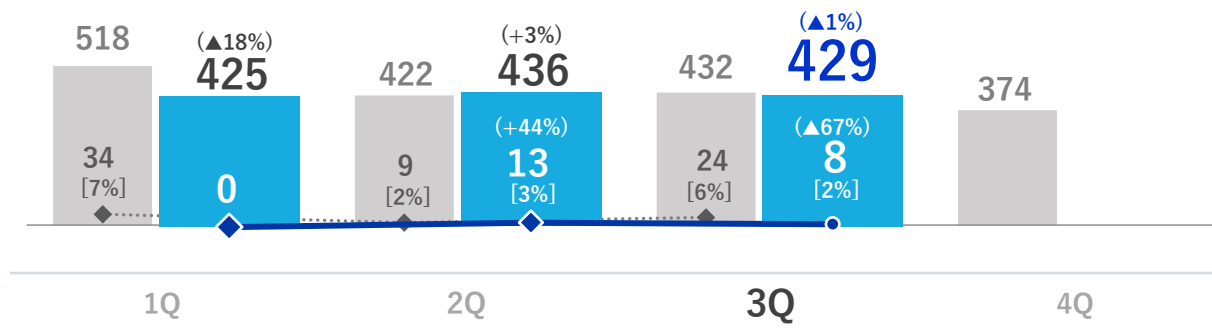
2023FY 3Q Summary

AI領域への開発リソースシフトにより、一般受託開発からSaaS関連への売上高シフトが継続。AIチャットボットへの積極的な開発・販売投資の継続によりセグメント利益は前年同期で減益

単位：百万円 () 前年同期比 [] 利益率 ※マイナスの場合は省略

2022FY ■ 売上高
◆ セグメント利益

2023FY ■ 売上高
◆ セグメント利益



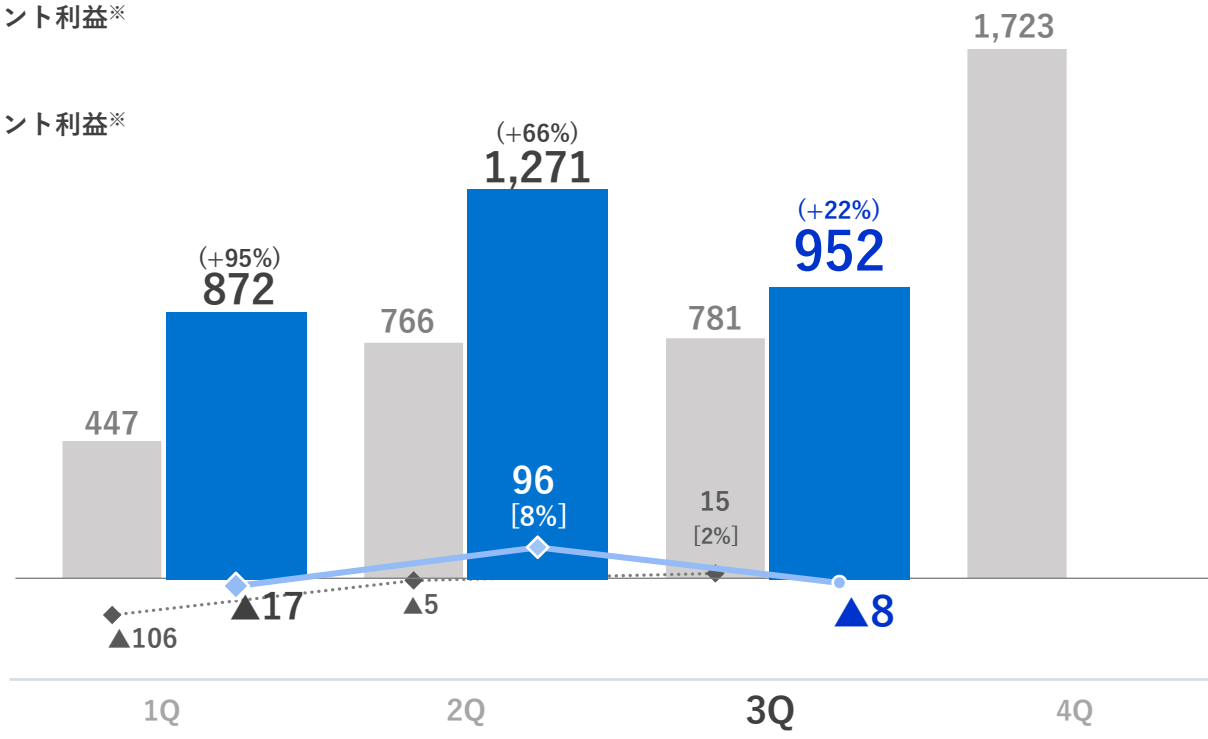
2023FY 3Q Summary

aiwa製品の売上高が好調に推移し、対前年同期で増収を継続
 一方で、為替環境等の変化が原価率に影響し、前年同期比減益に
 海外子会社連結における為替差益が大きく発生、累計で81百万を計上

単位：百万円 () 前年同期比 [] 利益率 ※マイナスの場合は省略

2022FY ■ 売上高
 ...◆... 実質セグメント利益※
 2023FY ■ 売上高
 ◆ 実質セグメント利益※

※実質セグメント利益
 =セグメント利益+為替差益

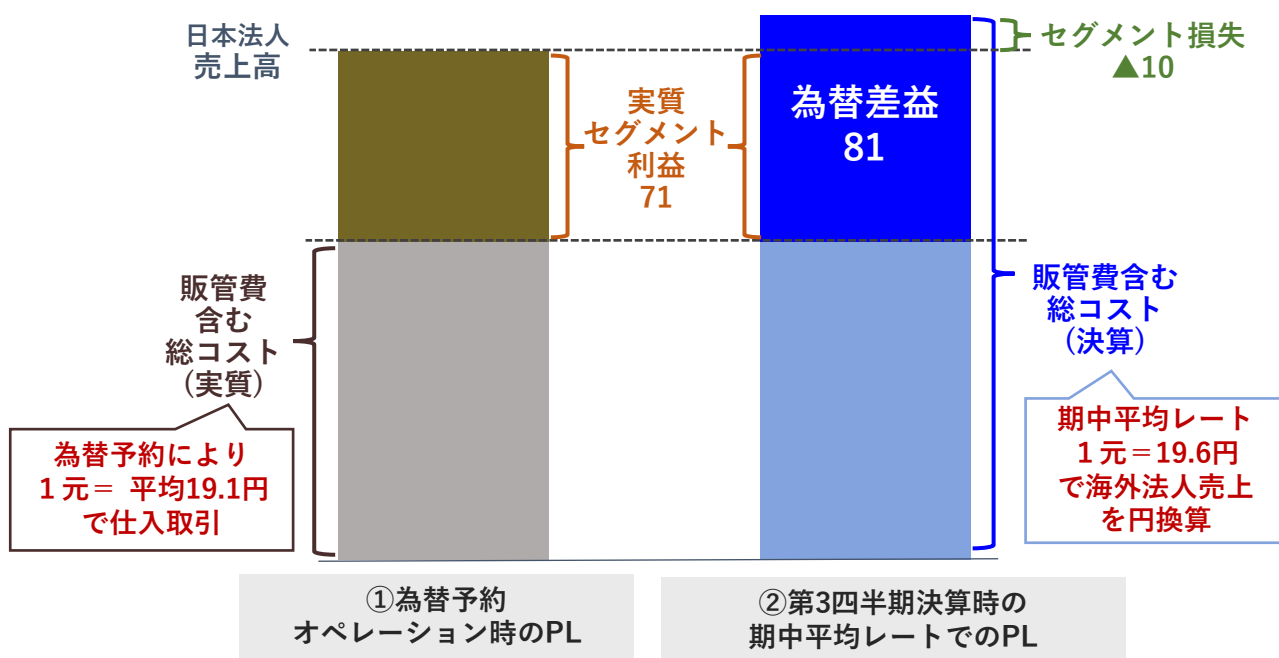


◆日常オペレーションによる為替予約レート（1元=19.1円）と、決算時に海外法人連結に適用する期中平均レート（1元=19.6円）の差が為替差益として発生

◆為替差益を加味したCN事業の実質セグメント利益は71百万円となり前期より167百万円改善

2023.3Q累計

為替予約レートより円安元高となり為替差益が発生



①日本/深圳の実際の取引は、案件毎に為替予約を行い、円建て仕入額を確定
<1~3Q：1元=19.1円で予約取引>

②連結決算時に期中平均レートで海外法人売上高を円換算
<1~3Q：1元=19.6円で換算>



上記①②の元レートの差0.5円がCN事業に関わる為替差益として第3四半期累計では81百万円発生

積極投資策継続による固定資産増加

- ・ SaaS、コンシューマ事業等への投資継続
- ・ CVCや資本業務提携等の有価証券の増加

負債の減少と純資産の増加

- ・ 借入金返済
- ・ 保有有価証券の評価替えによる「その他の包括利益累計額」の増加

単位：百万円	前年度末(23/2)	当期末(23/11)	増減		前年度末(23/2)	当期末(23/11)	増減
流動資産	6,160	4,813	▲1,347	流動負債	1,583	1,391	▲192
現金及び預金	2,983	2,112	▲871	契約負債	128	186	+58
受取手形、売掛金及び 契約資産	1,705	1,238	▲467	短期借入金・1年内 返済予定の長期借入金	399	356	▲43
前渡金	98	292	+194	その他	1,056	849	▲207
棚卸資産	918	694	▲224	固定負債	844	576	▲268
その他	456	477	+21	負債合計	2,427	1,968	▲459
固定資産	1,860	2,855	+995	株主資本(自己株式除く)	5,412	5,346	▲66
有形固定資産	210	257	+47	その他の包括利益累計額	131	288	+157
無形固定資産	551	902	+351	新株予約権・非支配株主持分	50	66	+16
投資その他の資産	1,099	1,695	+596	純資産合計	5,593	5,700	+107
資産合計	8,021	7,668	▲353	負債・純資産合計	8,021	7,668	▲353
				自己資本比率	69.1%	73.5%	+4.4p



II .2024年2月期 業績見通し

業績予想、配当予想とも期首予想を維持

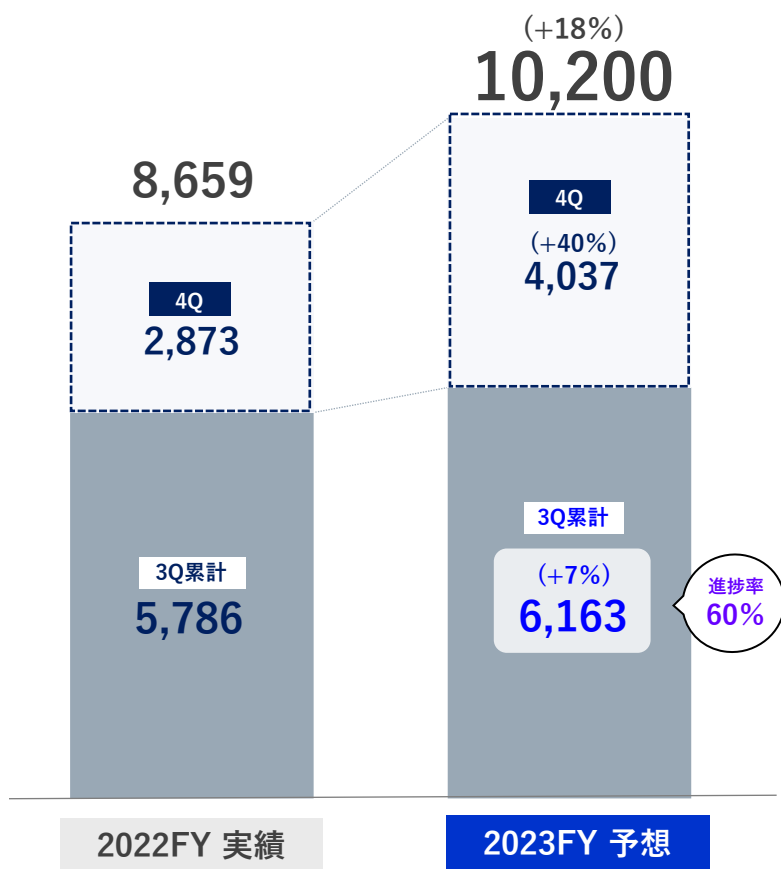
単位：百万円	2022FY 実績	2023FY 予想	前年同期比
売上高	8,659	10,200	+1,541
経常利益	386 (4.5%)	500 (4.9%)	+114 (+0.4p)
親会社株主に帰属する 純利益	262 (3.0%)	360 (3.5%)	+98 (+0.5p)
ROE	4.7%	6.3%	+1.6ポイント
一株あたり 配当金	5円	6円	+1円

年間予想に対する売上高の進捗は60%
4Qは、大幅増収による利益獲得を目指す

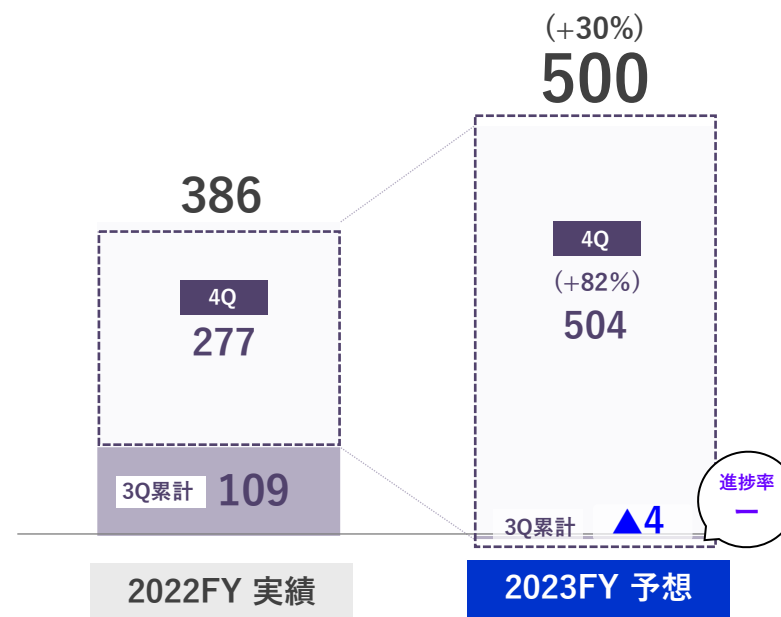
単位：百万円 ()内は前年同期比

売上高

※外部売上のみ



経常利益



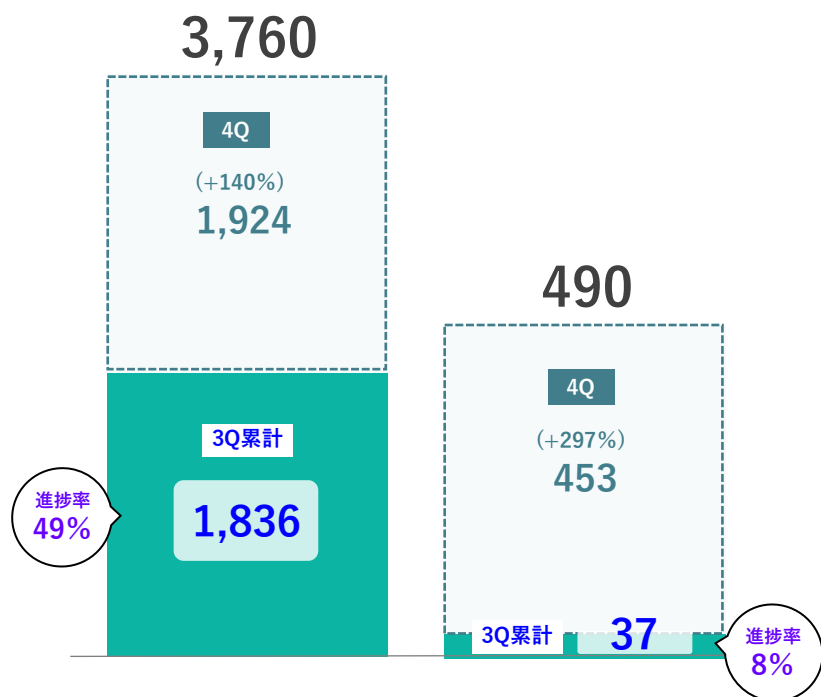
ライフデザイン事業

売上高

※外部売上のみ

セグメント利益

単位：百万円 ()内は前年同期比



2023FY 予想

4Q見通し

- ◆Nintendo Switch新作ソフト「クレヨンしんちゃん『炭の町のシロ』」の24年2月22日発売に向けた発売時受注獲得に注力
テレビCM、交通広告、SNS、ネット広告等、多角的な宣伝展開を計画
- ◆医療介護向けDX【KarteConnect】健康経営支援サービス【RenoBody】プリペイド決済サービス【ValueWallet】等のBtoBサービスのさらなる拡大
- ◆教育、メディカル、ヘルスケア等の大型ソリューション案件の開発推進

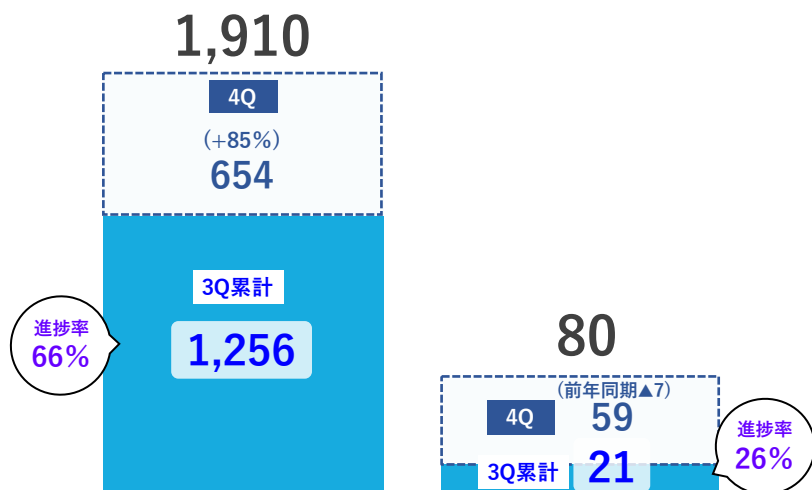
AI&クラウド事業

売上高

※外部売上のみ

セグメント利益

単位：百万円 ()内は前年同期比



2023FY 予想

4Q見通し

- ◆AIチャットボットサービス
【OfficeBot】 powered by ChatGPT APIを中心にSaaS事業が順調に拡大
企業導入好調の継続により4QからのSaaS事業収益化を見込む
- ◆AI領域の拡大に向けたリソースシフトを継続
新しいプロダクト開発や研究開発強化、業務提携を含めたリソース拡充策を推進

コネクテッド事業

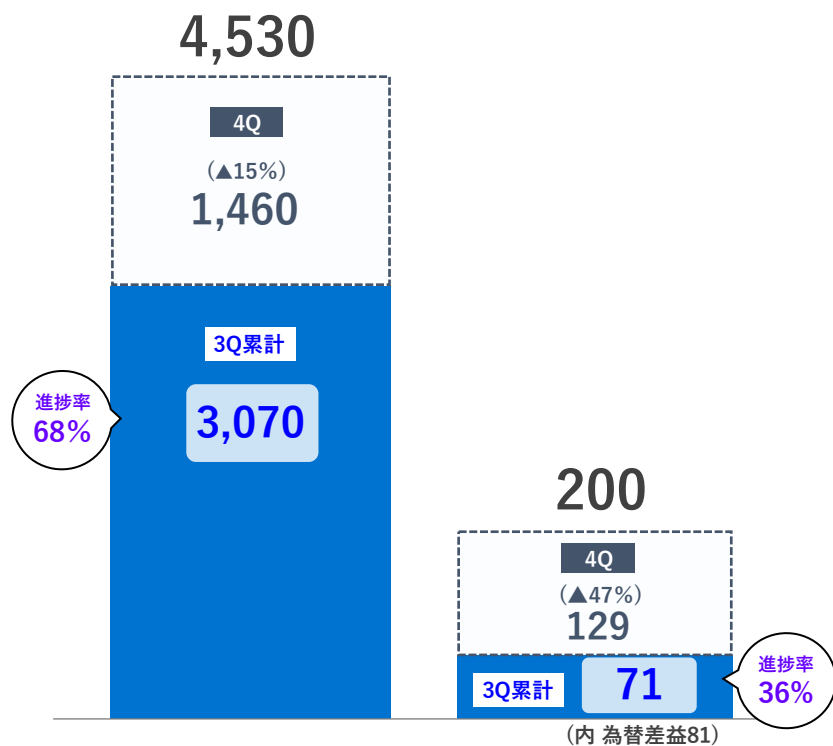
売上高

※外部売上のみ

実質セグメント利益

=セグメント利益+為替差益

単位：百万円 ()内は前年同期比



2023FY 予想

4Q見通し

- ◆ODMは年末及び春商戦に向けた受注活動の強化や、インバウンド需要回復の取り込みなど、受注拡大への取り組みを継続
- ◆自社ブランド「aiwa」は法人、コンシューマの両チャネルに対して拡大策を実施
12月に発売の新製品・液晶モニター【aiwa display】など、新製品投入も含めたさらなる事業拡大を図る

Nintendo Switch新作ソフトの発売時出荷

大型ODM案件の期中生産・納品

大型ソリューション案件の開発進行

ヘルステック新会社の連結会計処理

**上記動向により業績予想の修正が必要
となった場合は速やかに開示**



III. Appendix

所在地	東京都千代田区神田須田町1-23-1 住友不動産神田ビル2号館10F
連結従業員数 (2023年8月末現在)	484名 (国内273名・海外211名)
設立	2004年4月
上場 (証券コード：3627)	2008年5月 東証マザーズ上場 2012年1月 東証第一部へ市場変更 2023年10月 東証再編に伴いスタンダード市場へ移行
資本金 (2023年11月末現在)	2,409,703千円 発行済株式数 12,463,700株
連結子会社 (2023年11月末現在)	ネオス株式会社 JENESIS株式会社 スタジオプラスコ株式会社 Neos Vietnam International Co., Ltd (ベトナム) 創世訊聯科技(深圳)有限公司 (中国) 創紀精工(東莞)有限公司 (中国) スマはっちゅう株式会社 アイワマーケティングジャパン株式会社
決算期	2月

TechnologyとCreativeで未来を創る

コンテンツ・ソフトウェア・ハードウェアの多分野に亘る技術と知見、それらを支える人材を強みに
Service領域とTech領域の二軸でDXを深耕

Service領域

Tech領域

CharaTech



AIチャットボット

OfficeBot powered by ChatGPT API

AI・クラウド ソリューション ChatGPT Solution

aws partner network

aiwa



HealthTech

歩数計アプリ
RenoBody
医療介護DX
KC
KarteConnect

ライフデザイン

デジタルテクノロジーにより
生活を便利で豊かにする
サービスやソリューションを提供

EdTech



教育コンテンツ

FinTech

プリペイド決済
VALUE WALLET
酒販卸向けDX
イッパシ

AI&クラウド

先進技術を駆使したSaaSや
Techソリューションで
企業のDXやビジネスを支援

POCKETALK シリーズ



コネクテッド

コネクテッドデバイスなど
モノとインターネットの融合による
新たな価値を創造

各種IoTデバイス



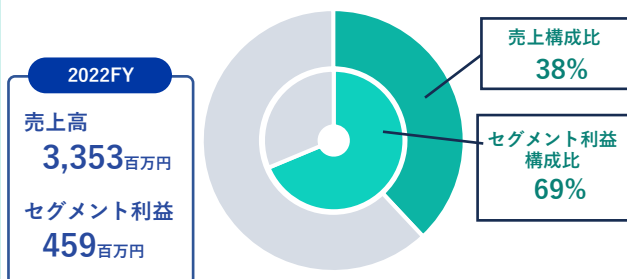
見守りGPS



スマートロック

デジタルコンテンツからAI/IoTまであらゆる分野でデジタル化による付加価値創出を追求

ライフデザイン事業



Business Domain

コンシューマサービス

- Nintendo Switch等のキャラクターコンテンツ
- 知育・教育等のキッズアプリ

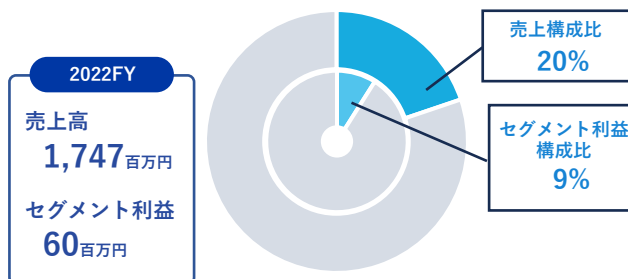
B to B サービス

- 同分野におけるクラウドサービスの提供
 - ・健康経営支援サービス「RenoBody」
 - ・プリペイド決済サービス「ValueWallet」
 - ・医療介護向けDX「KarteConnect」
 - ・酒販業界向けDX「スマはっちゅう」 等

ソリューション

- 教育/メディカル/ヘルスケア/決済領域におけるソリューション

AI&クラウド事業



Business Domain

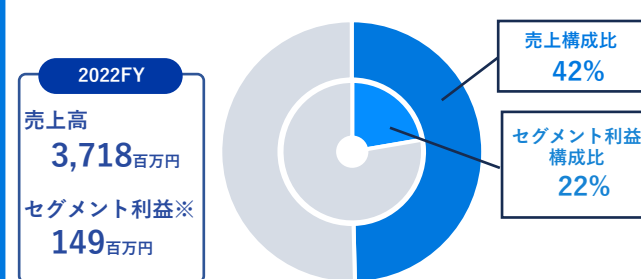
SaaS

- AIチャットボットサービス「OfficeBot」
- クラウドアドレス帳サービス「SMARTアドレス帳」

ソリューション

- ChatGPTソリューション
- AWS、Kintone等のクラウド導入、運用やスクラッチ開発

コネクテッド事業



Business Domain

ODM

- 通信デバイスの開発・製造・保守・カスタマーサポート
- デバイスに対応したアプリやプラットフォームの開発

自社プロダクト

- 自社ブランド「aiwa」製品シリーズ

※実質セグメント利益（セグメント利益+為替差益）

知育・教育／健康／FinTech／キャラクター利用等の分野において デジタルテクノロジーを活用したライフデザインサービスとソリューションを提供

» 事業の歩み

- ガラケー時代の創業当初、通信キャリアや端末メーカー向けにコンテンツ制作、サービス開発から組み込みソフトまで幅広く対応
- スマホ転換期、通信キャリアのビジネスモデル変容により、コンテンツ力やサービス力を活かした自社ビジネスへのシフトとそのノウハウを基にしたソリューションに転換

高度なクリエイティブ力とコンテンツ制作力をベースにキャラクター版権元との強固なパートナーシップを構築



コンシューマサービス

人気キャラクターIPをフックにクリエイティブ力を活かした多彩なコンテンツを世界中に展開



キャラクターコンテンツ

キッズアプリ

ソリューション事業で培った業界知識を活かして各領域に特化した法人向けクラウドサービスを提供



BtoBサービス

ヘルスケア、医療、決済などの領域におけるBtoBサービスを展開



健康経営支援サービス



医療・介護向けDXプラットフォーム



プリペイド決済サービス

自社サービスのノウハウ活用によりサービスプロデュースやシステム開発などのソリューションを展開



ソリューション

教育、メディカル・ヘルスケア、決済などの領域におけるソリューションを展開



教育コンテンツ

メディカルサービス



ヘルスケアサービス



決済ソリューション

AIチャットボット及びクラウドアドレス帳サービスなどのSaaSやAWS等を活用したTechソリューションを提供

事業の歩み

- 通信キャリア向けのサービスやシステム開発に始まり、ITの進展とともに一般法人においてもクラウドなどの技術を活用した業務システムやサービス開発を支援
- AIやクラウドなど先進技術における研究開発を積極的に推進
これを応用したチャットボットや法人向けアドレス帳などの自社サービスをいち早く提供開始

アプリ、クラウドやAI等の自社開発技術に加え
生成AIなど新しく登場した技術を活用し
自社SaaSを構築・展開



SaaS

独自開発の技術やサービスノウハウを活かし
組織内の業務を最適化するSaaSを提供



SaaSと併せて、顧客固有の
ニーズに応じた最先端の実用テクノロジーを用いた
ソリューションを展開



ソリューション

自然言語処理やクラウドなどの
豊富な知見・開発力により
ビジネスのイノベーションや企業DXを支援

ChatGPT Solution



通信デバイスの開発・製造や、デバイス活用におけるプラットフォーム・アプリケーション開発を通じて
モノとインターネットを融合した価値を提供

事業の歩み

- JENESISが保有する2拠点の中国工場と宮崎カスタマーサポート拠点により海外コスト×日本品質を実現するODM事業を確立
- ODMで培ったノウハウを活かし、法人向けのICTデバイスを中心とした自社製品事業も並行して展開



設計から試作・量産・保守・カスタマーサポートまで
一気通貫による独自の事業体制
さらにネオスとの連携によりデバイスのみならず
アプリからシステム開発まで対応



ODM

製造実績500機種以上
製品種別を問わず、ソフトウェア領域までカバーした
幅広いODMサービスを展開



みてねみまもりGPS



「POCKETALK」シリーズ



法人向けICT製品

国内メーカーとしての基盤確立に向けて
オーディオブランド“aiwa”の商標使用権を取得
デジタルの付加価値を備えた新生「aiwa」として展開



aiwa

自社プロダクト

国内ブランドの安心感と
JENESISならではのコストパフォーマンスを
兼ね備えた多彩な製品を販売



スマートフォン／タブレット



スマートウォッチ



電子楽器

発行済み株式総数 12,459,800株
(+120,300)

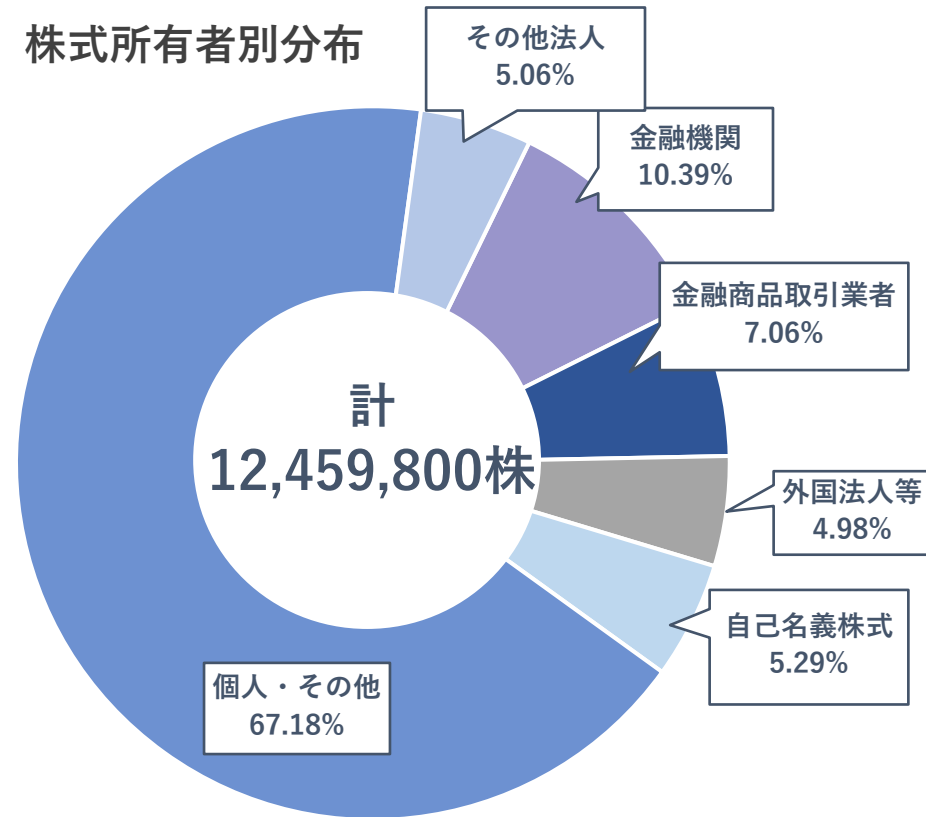
株主数 7,636名
(+130)

※()内は対前年度末

大株主(上位10名)

	所有株数(株)	持株比率(%)
池田 昌史	1,877,800	15.91
太陽生命保険株式会社	570,000	4.83
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	391,300	3.31
藤岡 淳一	370,600	3.14
SOCIETE GENERALE PARIS/BT REGISTRATION MARC/ORT	363,200	3.07
シャープ株式会社	360,000	3.05
井川 等	217,000	1.83
楽天証券株式会社	182,200	1.54
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	181,400	1.53
株式会社SBIネオトレード証券	176,600	1.49

株式所有者別分布



※ 持株比率は自己株式数(660,105株)を控除して計算しております。

TechnologyとCreativeで 未来を創る

テクミラグループは「Technology」と「Creative」をもって
社会を彩るミラクルな未来を創造してまいります

IR メールニュース
ご登録はこちら <https://www.tecmira.com/ir/mailnews/>

当社IRに関する最新情報をタイムリーにお届け致します



シェアードリサーチ社による
当社の調査レポートはこちら



<https://sharedresearch.jp/ja/companies/3627>

